



ひろしま Sotto

開設記念シンポジウムを開催します。

ひろしま Sotto は 10 月 18 日（水）に広島駅近くのビルにおいて開設記念シンポジウムを行います。Sotto の理事で精神科医の松本俊彦氏等が登壇します。詳細は同封のチラシをご参照ください。

思えば今から 2 年前の秋。京都の竹本代表から「広島支部を立ち上げませんか」と打診を受けました。最初は現実的に難しいと感じて躊躇しながらも、どうなるだろうかという不安を抱えながら、少しずつ縁のある人に声をかけて 11 人のメンバーでスタートしました。それから一年の準備期間にミーティングや研修を重ね、広島では「心の居場所づくり」を中心に活動していくことになりました。そして、今年のクリスマスには「あったかごほんの集い」を開催しました。クリスマスや年末というのは孤独感が強まる時期ですので、何とかそこでの開催を実現したいとの思いで、全員で知恵を出し合い、走り回ったのが、ずいぶん昔のことのように感じます。

現在は月に一回、試験的にいろいろな曜日と時間帯で「あったかかふえの集い」を開催しています。毎回のアンケートには「あったかかった」という感想も多く、参加される方の心の居場所づくりになっていると実感しています。街中で孤独を感じている人や地元では話せないという人などのことを考えて、広島市の中心部で開催しています。

当初はスタッフ側の受入れ態勢がまだまだ不十分という理由もあったことから、あまり告知をしてきませんでした。それでも毎回 5～6 名の参加があります。これまで集いを何度か開催してきて、少しずつ経験を積み、受け入れ態勢も整いつつありますので、このたびこの開設記念シンポジウムを行い、もっと多くの方に知っていただくという運びとなりました。「集い」についても情報を必要としている方に届けたいと思っていますし、私たちの理念や思いに賛同し、あらたに加わってくださるメンバーも増えていけばと思っています。多くの方の参加をお待ちしています。

(ひろしま Sotto 代表 武田慶之)

生越理事長×竹本代表

2010年の開設から8年。Sottoの活動を継続するなかで、開設当初より鮮明になったSottoの特徴や大切にしていることについて、今年度から理事長を務める弁護士が生越と代表の竹本の対談でお伝えします。



vol. 1 「Sotto の変なところ」

竹本：生越さんは、日本の自殺者数が十数年連続で3万人を越えて、自殺の問題が社会的問題として扱われるようになった最初期の頃から、ライフリンクと連携しながら携わっておられると思うんですけど。色んな活動や様々な団体を見ておられると思うんですけど、そのなかでも、Sottoのここが変だよというところは、どんなところですか？（笑）。

生越：変なとこねー（笑）。

竹本：僕ら中にいるとなかなか自覚化できないところもあって。

生越：ある種ね、近代的じゃない（笑）。

竹本：めっちゃ近代的だと思ってやってますけど（笑）。

生越：あはは。発想が近代的じゃない。

竹本：なるほど。

生越：典型的なところでいえば、お医者さん。行政もそうだし、僕ら弁護士だってそうなんだけど。何か悪いものがあるって、それを取り除けば、問題が解決するという見方。それは、対象を現象化する。つまり原因論ですよ。原因があって、結果があって。結果をよくするには、その悪しき原因を取り除けば良いんだ。基本的に法律だってそう。基本的に医学だってそう。二元論的に理解しようとして、目的と原因で全てものごとを見てしまう。これが私は近代的なものの見方だと思っている。それでは、物事は回らない。一昔前は、この原因論って限界があって、嘘だしという見方があった。そのなかでも、世の中の流行りにのっかりながら、あえて、原因論を使う研究者や実践者がいた。原因論も限界があるよね、と分かりながらやる風潮があった、ちょっと前までそれが随分あったと僕は思う。最近のがちで原因論。これしかないという全幅の信頼をおいている人が多い。そのなかで Sotto は、それだけじゃないだろう、そこには限界があるんだと時代の波に逆行して、あらがっているところが、変なところだし、Sottoらしいなと思う（笑）。そのなかで、手段、ツールとして、近代的なものを使うのはもちろん必要だと思うんだけど。何かを取り除いたら、どうなるという発想をしていないのがユニークだと思う。

竹本：それは因果の法則ですよ。ものごとには必ず原因があって、結果がある。そこはすごく Sotto 自体も踏まえて考えている。だけど、それだけでは、見えない測れない部分であったり、置いてけぼりにしてしまうところについて、目を背けないようにしている感覚はありましたね。いくら考えても、やりつくしても、埋められない部分がある。むしろ、そこの方が膨大じゃないか。それから、科学的な客観的な視点で、分析するとか。それについて、問題が解決して、良い結果が得られるんだという、ボクなんかは団塊のジュニア世代で、そんな教育で生きてきて、そのような価値観で生きてきて、だけどそれだけじゃ、幸せは得られない、つかめないとか。そこらへんのギャップが根本であると思っている。だから、変に社会の多くの人というオーソドックスな議論や考え方は、確かにそれはそれで大事だけど、限界がある、別ものも必要じゃないか、という想いはあります。

(次号につづく)



今月のことば

ああ、わたしはどこへ行くのか知らない、
おほきな、いきもののやうな月が、ぼんやりと行手に浮んでゐる、

(萩原朔太郎『月に吠える』より)

活動報告

- 8月期電話相談件数…167件（無言14件、よりそいホットライン担当61件を含む）
- 電話相談委員会 … グループ研修 8月24日6名、31日10名
- メール相談件数…受信87件、送信79件
- メール相談委員会…委員会会議 8月23日6名
- 居場所づくり委員会 …Sotto おでんの会 “食事の場” 8月2日10名（参加者15名）
委員会会議 8月23日7名
- グリーフサポート委員会 … 委員会会議 8月30日5名
- 研修委員会 … 委員会会議 8月18日7名
- 広報発信委員会 … 委員会会議 8月21日7名
- 映画委員会 … 委員会会議 8月1日4名

寄付ご協力一覧（敬称略・順不同） 2017年8月1日～31日 受付分

ご支援ご協力ありがとうございます。

浄土真宗本願寺派

株式会社エクザム

葛野洋明

萩野昭裕

京都・一念寺

関岡美一

熊本県上益城郡・法光寺（沖田芳悟）

森田恵

石井俊司

佐々木恵精

日高宏

永江武雄

匿名希望 1名

Sotto コメント

自分の感情を自分自身がそのまま受けとるのは簡単なようではなかなかにできない。でも、それが一番大事。(N.Y.)

発行 2017年9月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92

T E L 075-365-1600

U R L <http://www.kyoto-jsc.jp>

E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp